

令和5年度企画展

解説  
資料

# 台所の歴史

令和5年7月11日(火) ▶ 9月24日(日)

会場 大分県立埋蔵文化財センター 企画展示室



土師質土器鍋 北ノ後遺跡(大分市)  
大分県立埋蔵文化財センター蔵



弥生土器甕 四日市遺跡(玖珠町)  
大分県立埋蔵文化財センター蔵

台所とは家の中で食物の調理や炊事をする場所です。台所のはじまりは縄文時代にさかのぼり、火の使用や土器の出現、竪穴建物の住まいなどによってその空間が成り立ちました。台所は縄文時代以降、現代に至るまでの長い時間をかけて移り変わってきました。いつの時代でも台所は暮らしの中心であり、食卓を彩る食器類、便利な調理具があります。本企画展では、台所の移り変わりについて紹介します。



大分県立埋蔵文化財センター  
TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700



〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61  
E-mail a31720@pref.oita.lg.jp  
<https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>  
Facebookもチェック @oita.maibun

# 縄文時代

縄文時代に最も普遍的につくられた竪穴建物は、地表面に竪穴を掘り、その底面を平坦に踏み固めて床とし、上屋を構築して居住空間をつくった住居です。住居の形は円形で、床面中央を一段と深く掘り下げた石囲炉などが設けられるようになり、住居空間と調理空間が複合するようになります。屋外に設けられた台所的な施設として、ドングリ類のアク抜きを目的とした水さらし場遺構があります。

食べ物を調理すること、水を使い火熱を利用した調理は、土器の発明によってはじめて可能となり、調理の幅を広げました。当初、土器の用途は、ドングリ類のアク抜き、煮炊きなど直接食べ物の調理に関係していました。やがて煮炊き用以外に盛り付けや貯蔵などの方法も加わり浅鉢などの形も増加しました。

調理の準備段階（切ったり洗ったりする）では、石器が主体で、食材をつぶしたり磨ったりする道具として、叩き石や磨り石、石皿を利用して加工されました。



竪穴建物検出状況 法垣遺跡（中津市教育委員会写真提供を加筆）



縄文土器深鉢 法垣遺跡（中津市教育委員会蔵）

# 弥生時代

弥生時代の住居は、それまでの住居の伝統を引き継いだ竪穴建物で、住居の平面形は円形から方形へと移り変わります。住居の中央には、地床炉が設けられる場合が多いです。

この時代では新たな食料獲得として、水稻耕作が広がって定着していきます。食料のほとんどを自然に頼る生活から、栽培植物を育て、食料を生産していく生活へと大きく変化した時代でもありました。

この時代では、弥生土器が使用され、煮炊きのための道具は甕が主体で、四日市遺跡（玖珠町）の甕はこの頃のもので、盛り付けには高坏が使用されました。調理具は叩き石や磨り石が引き続き使用されました。



竪穴建物検出状況 四日市遺跡



弥生土器甕 四日市遺跡（大分県立埋蔵文化財センター蔵）

# 古墳時代

古墳時代の住居は竪穴建物であり、平面形は方形です。この時代では、それまでの炉に変わって、カマドが主体になります。カマドの位置は、建物の壁際にあります。住居の内側に向けて焚口を開き、奥壁に煙道をつくり、炊事の煙を直接外側に出す工夫がなされています。カマドの使用によって、火を焚く場所が中央から壁際に移ると、建物内の部屋の使い分けが可能になりカマド周辺が台所的な空間となりました。煮炊きのための道具は、甕が主体となりました。

この時代には食器に大きな変化がみられます。土師器に加え、灰色硬質の須恵器が登場します。毛井遺跡出土資料は同じ住居内で土師器とともに一緒に使用したものです。甌は、調理方法のひとつとして、食物を蒸して食べる方法が確立したことを示しています。



竪穴建物検出状況 原田遺跡



須恵器坏身・蓋 毛井遺跡 (大分県立埋蔵文化財センター蔵)



土師器甌 原田遺跡 (大分県立埋蔵文化財センター蔵)

# 古代

古代、平城宮や官庁の中心建物や寺院などは石の上に柱を立てた礎石建物でしたが、その他の建物は地面に穴を掘り、そこに柱を埋めた掘立柱建物で居住空間として成り立ちました。土師器、須恵器の使い分けが進み、カマドなどの煮炊き道具には火熱に強い土師器が、水や米などの貯蔵には須恵器が使用されました。この段階では、土師器坏のように、個人用の食器が広く使用されました。移動式カマドは、その名のとおり移動可能なものです。発掘調査でしばしば破片で出土しますがその全容は不明です。丹生遺跡群第12地点出土資料は、その全形を復元できた貴重な資料です。



土師器坏 上野町遺跡 (大分県立埋蔵文化財センター蔵)



移動式カマド 丹生遺跡群第12地点 (大分市教育委員会蔵)

# 中世



鉄製鍋 表遺跡 (豊後大野市教育委員会蔵)

中世の集落遺跡の調査で発見される遺構として、掘立柱建物、溝、土坑、井戸があります。掘立柱建物は建て替えにより柱穴が重なっています。掘立柱建物の様子は中世絵巻物においてうかがうことができます。

中世の食器は、椀や小皿など土器が主体で、漆器なども使用されました。この頃から釉薬のかかった輸入陶磁器の使用が増えます。

表遺跡出土の鉄製鍋は、当時の使用状況を物語る貴重な資料です。北ノ後遺跡出土の足鍋（表紙写真左）のように、五徳の役割を担う脚を付けた移動可能な煮炊具も出土しています。

# 近世



焙烙 府内城・城下町 (大分県立埋蔵文化財センター蔵)

近世にはいと、それまでの土器や陶器、漆器のほか、磁器が加わり、目的に応じて種類が多様化しました。磁器は陶器に比べて薄手で軽く、肥前を中心に大量につくられ国内に流通しました。

またこの頃は、調理の幅が広がった時代であり、料理に関連する道具の機能分化が進みました。鍋も、煮たり、煎ったり、炒めたり、揚げたりする専用の鍋に機能分化していきました。焙烙は炒めたりするものです。



レキシカくん



マイカちゃん

## 展示資料一覧

資料名(時代)	出土遺跡(市町村)	所蔵
縄文土器深鉢 (縄文時代)	法垣遺跡(中津市)	中津市教育委員会
弥生土器甕 (弥生時代)	四日市遺跡(玖珠町)	大分県立埋蔵文化財センター
須恵器坏身 (古墳時代)	毛井遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター
須恵器坏蓋 (古墳時代)	毛井遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター
土師器甌 (古墳時代)	原田遺跡(玖珠町)	大分県立埋蔵文化財センター
土師器坏 (奈良・平安時代)	上野町遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター
土師器移動式竈(奈良・平安時代)	丹生遺跡群第12地点(大分市)	大分市教育委員会
瓦器椀 (鎌倉時代)	今成館跡(宇佐市)	大分県立埋蔵文化財センター
土師質土器小皿 (鎌倉時代)	今成館跡(宇佐市)	大分県立埋蔵文化財センター
土師質土器足鍋 (鎌倉時代)	北ノ後遺跡(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター
鉄製鍋 (室町時代)	表遺跡(豊後大野市)	豊後大野市教育委員会
土師質土器焙烙 (江戸時代)	府内城・城下町(大分市)	大分県立埋蔵文化財センター

主催 / 大分県立埋蔵文化財センター

後援 / 大分合同新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分 OAB大分朝日放送

●休館日

月曜日

※月曜日が祝日と重なった場合は、翌平日を休館とする

●利用時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

●入館料 無料

考える! 読み解く! **豊の国考古館**

探る! 発見する! **BVNGO大友資料館**

遊ぶ! 感じる! **歴史体験学習館**

## — 関連行事 —

考古学講座「台所の歴史」

山本哲也 (大分県立埋蔵文化財センター)

7月19日(水) 13:30~15:00

ギャラリートーク

8月5日(土)・9月2日(土)

いずれも13:30~14:30



8月20日(日)

10:30~11:30・16:20~17:00